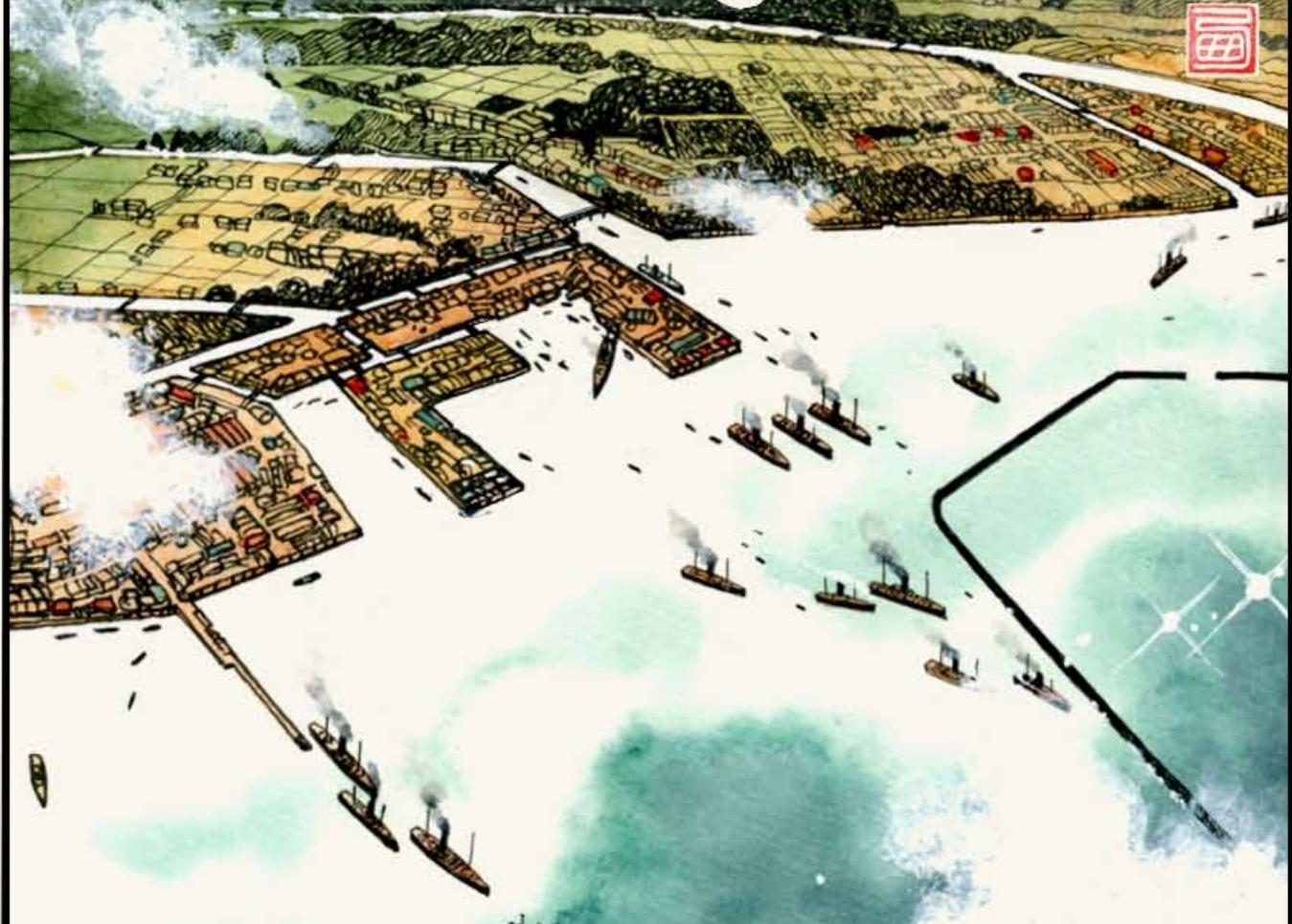


住友四百年

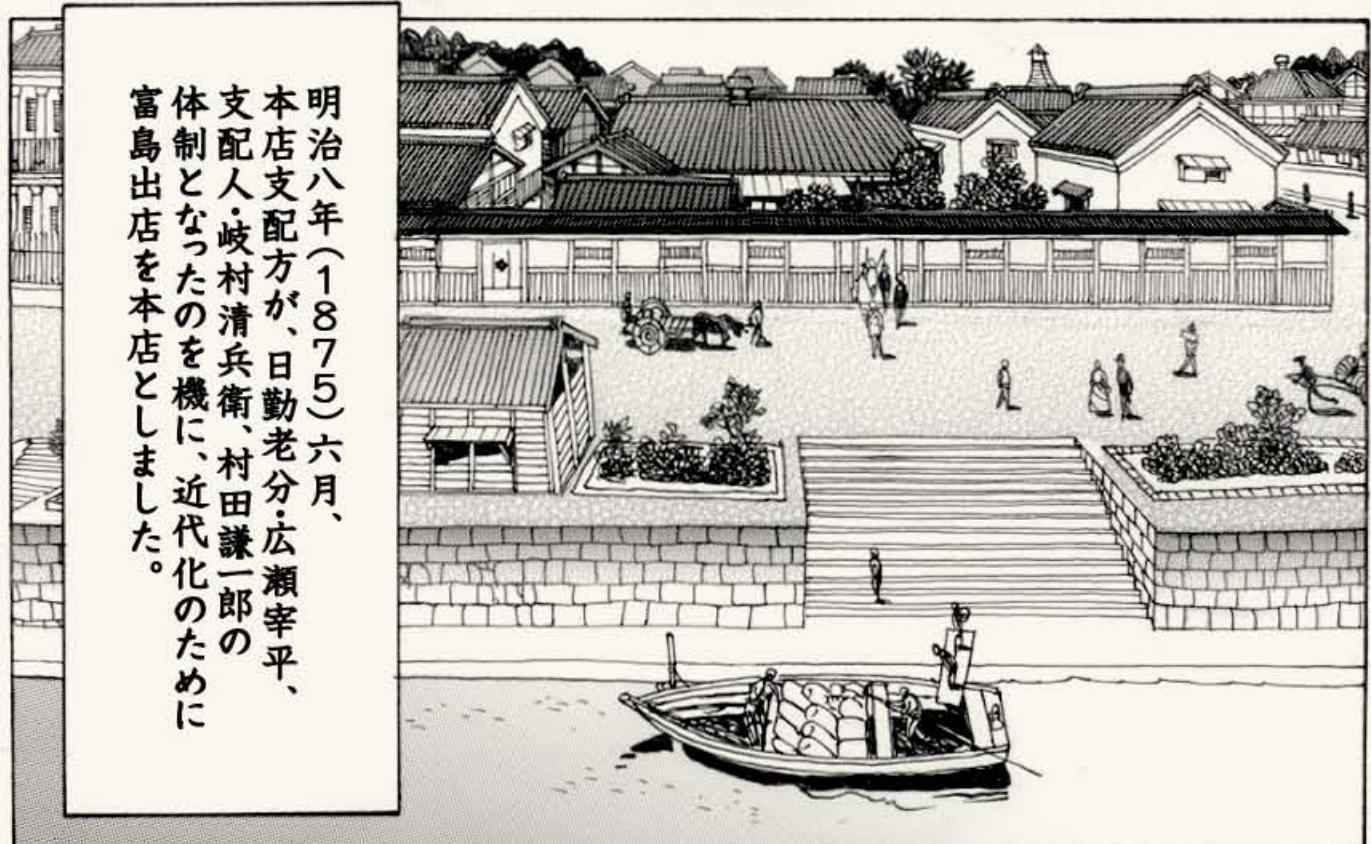
源・角



第十話「逆名利君の信念」
作:西ゆうじ画:長尾朋寿



住友は、明治六年（1873）。
それまで永きにわたり、大阪・鰻谷東ノ町
(現・大阪市中央区島之内一丁目)の
本家と共にあつた店舗を、
明治二年の銅吹所の別子銅山麓の
立川(新居浜市)への移転等と、
海運の便の良い安治川河口の
富島(現・西区川口四丁目)に、
まず出店として移し、



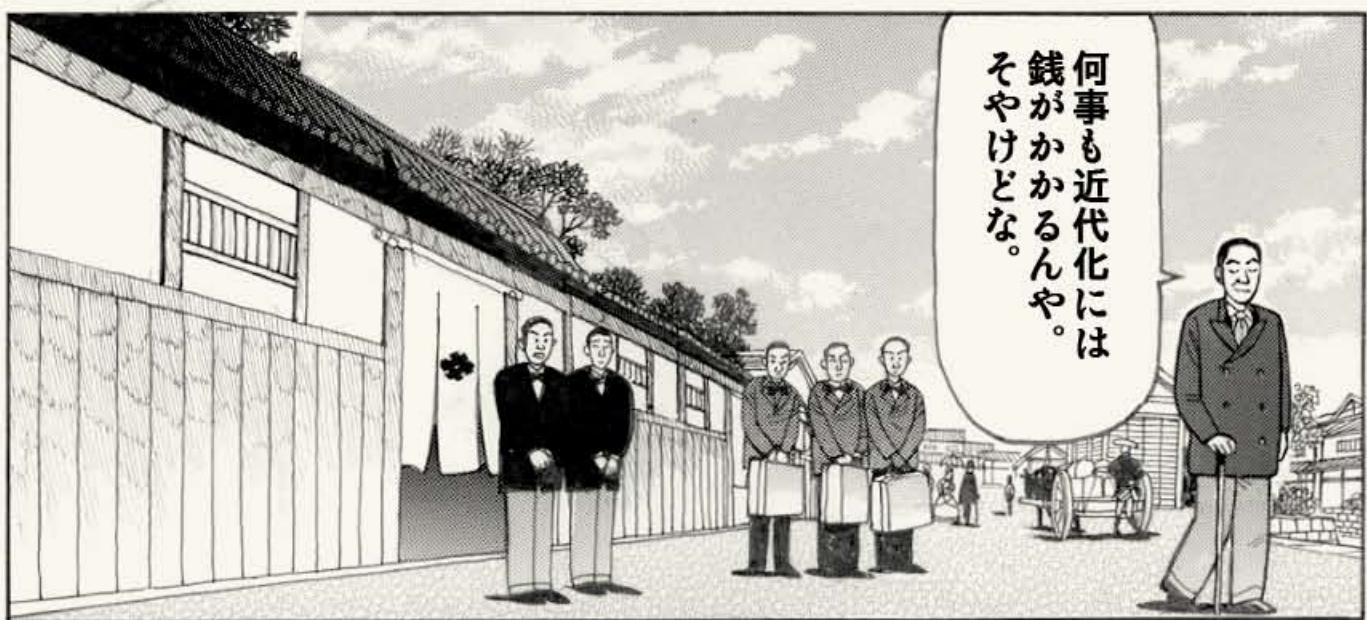
明治八年（1875）六月、
本店支配方が、日勤老分・廣瀬宰平、
支配人・岐村清兵衛、村田謙一郎の
体制となつたのを機に、近代化のために
富島出店を本店としました。

広瀬はん。

フランス人技師の
ラロックが、別子銅山近代化の
目論見書を作り上げたって、ほんまでつか?



何事も近代化には
錢がかかるんや。
そやけどな。



万世不朽の…

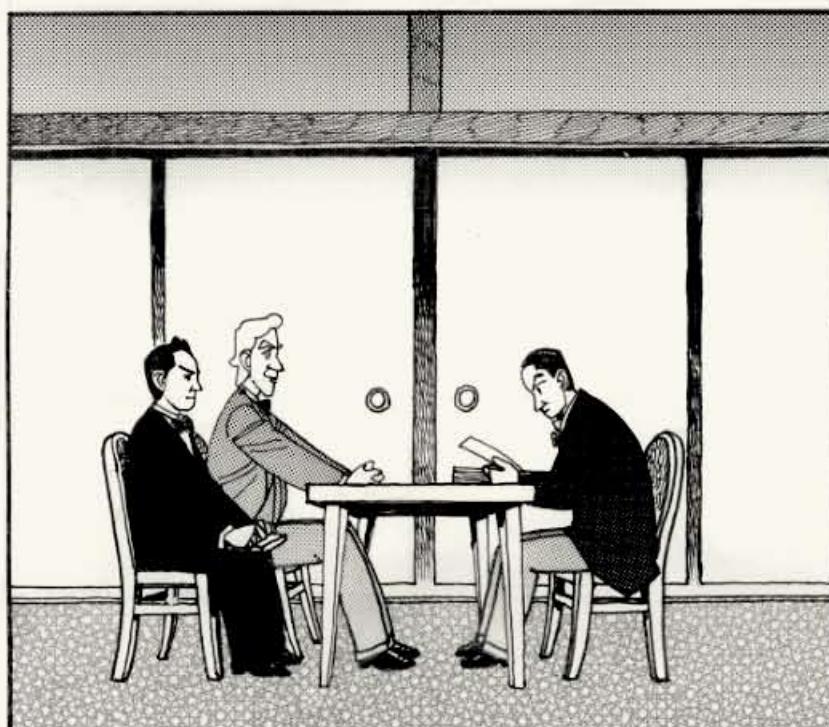




…さあ!?

住友は学制発布の翌年、明治六年には別子銅山の人々の子供たちのために、住友私立足谷小学校を開校していました。

この点でも、ほかより早い、スピードだったのです。





これまで銅山で行っていた
焼鉱、一番吹（溶鉱）、そして
二番吹（製錬）、そして
大阪から立川中宿に移した
三番吹（精錬）の全てを
新居浜に移すべき。

次にそのためには、
銅鉱石を新居浜へ
運ぶために、それ専用の
牛車などのための運搬
車道の建設が必要と。

この巨費のうち、あなたたち
フランス人技師の人工費が、
約二割の十三万八千百円だと？

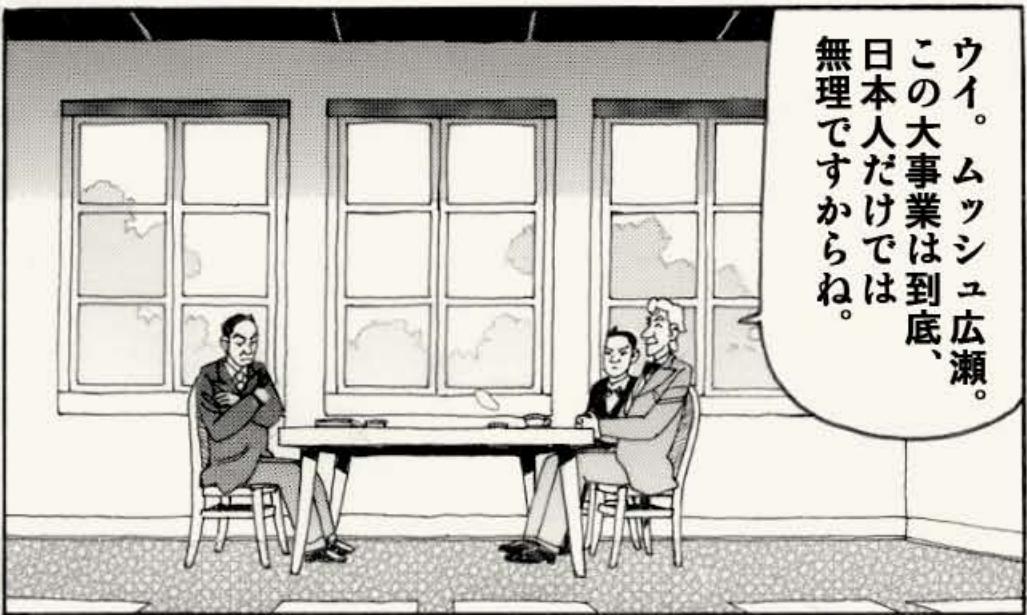
ニヤコリ

うん。

そして、これらの別子銅山近代化に
要する費用は、この別子銅山の
純利益の七年分に相当する：
六十七万参千七百五円一一錢。



ウイ。ムツシユ広瀬。
この大事業は到底、
日本人だけでは
無理ですからね。



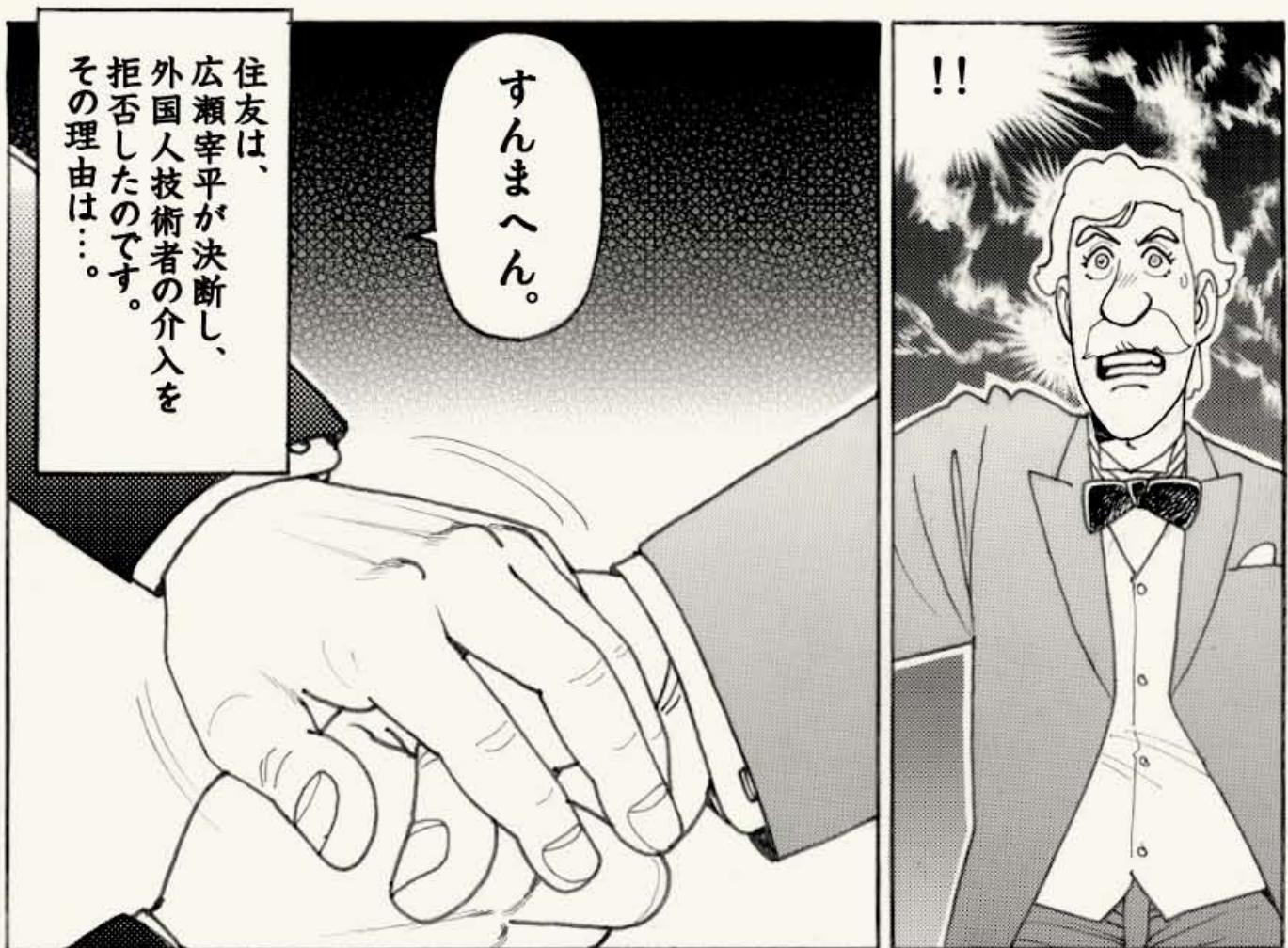
ラロックさん。
ほんまに素晴らしい
目論見書をおおきに。
有り難うございました。
メルシーでつせ。



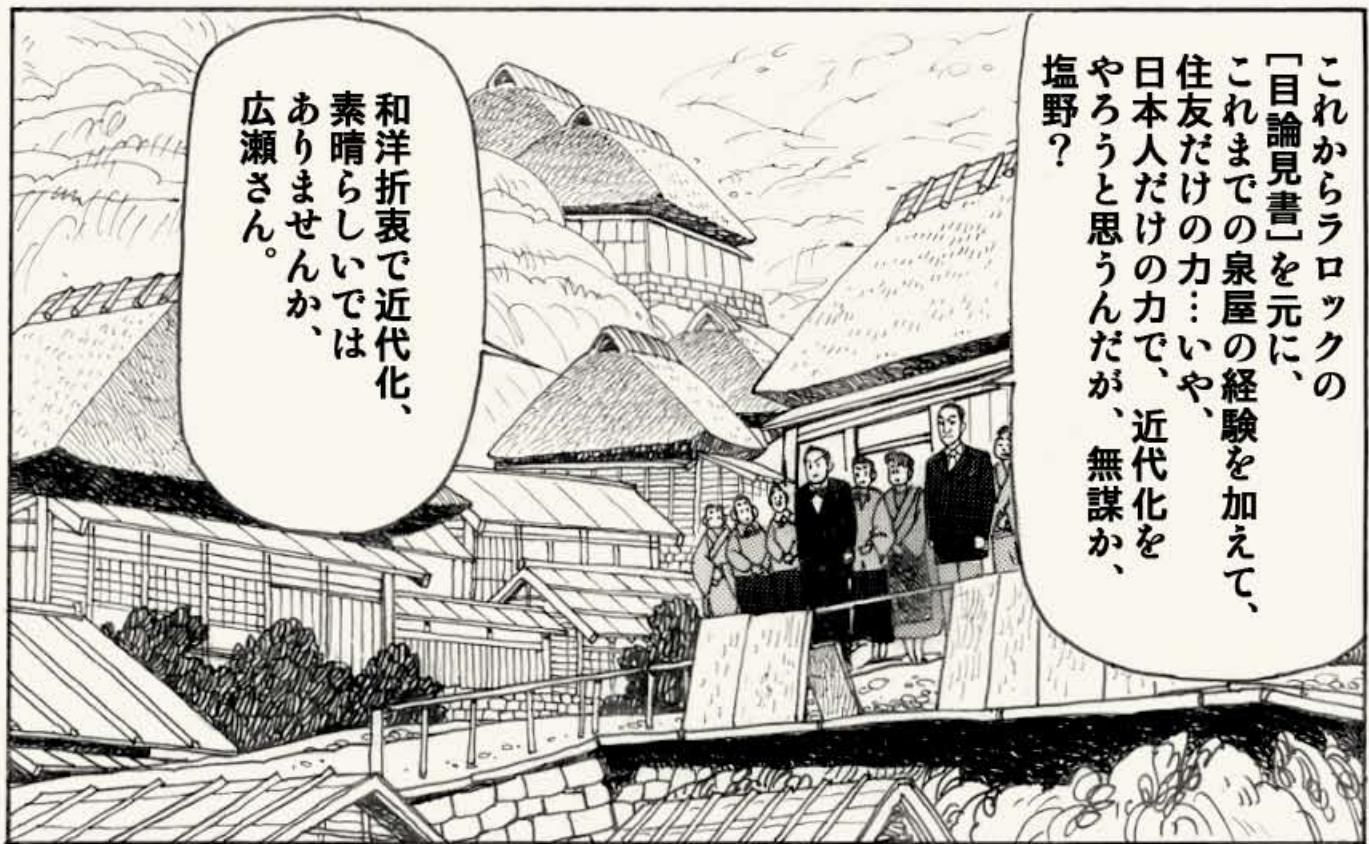
どういたしまして。
私はこの素晴らしい
別子銅山に
魅了されたんです。
だから今後も、ここ
ために働きたい…。

長い間、
ご苦労様さんでした。
ご帰国のご用意を
急いでどうぞ。



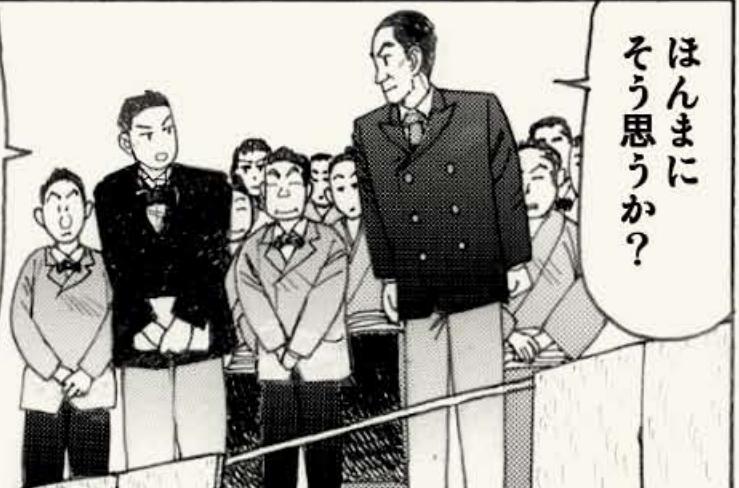


これからラロックの
「目論見書」を元に、
これまでの泉屋の経験を加えて、
住友だけの力：いや、
日本人だけの力で、近代化を
やろうと思うんだが、無謀か、
塩野？



和洋折衷で近代化、
素晴らしいでは
ありませんか、
廣瀬さん。

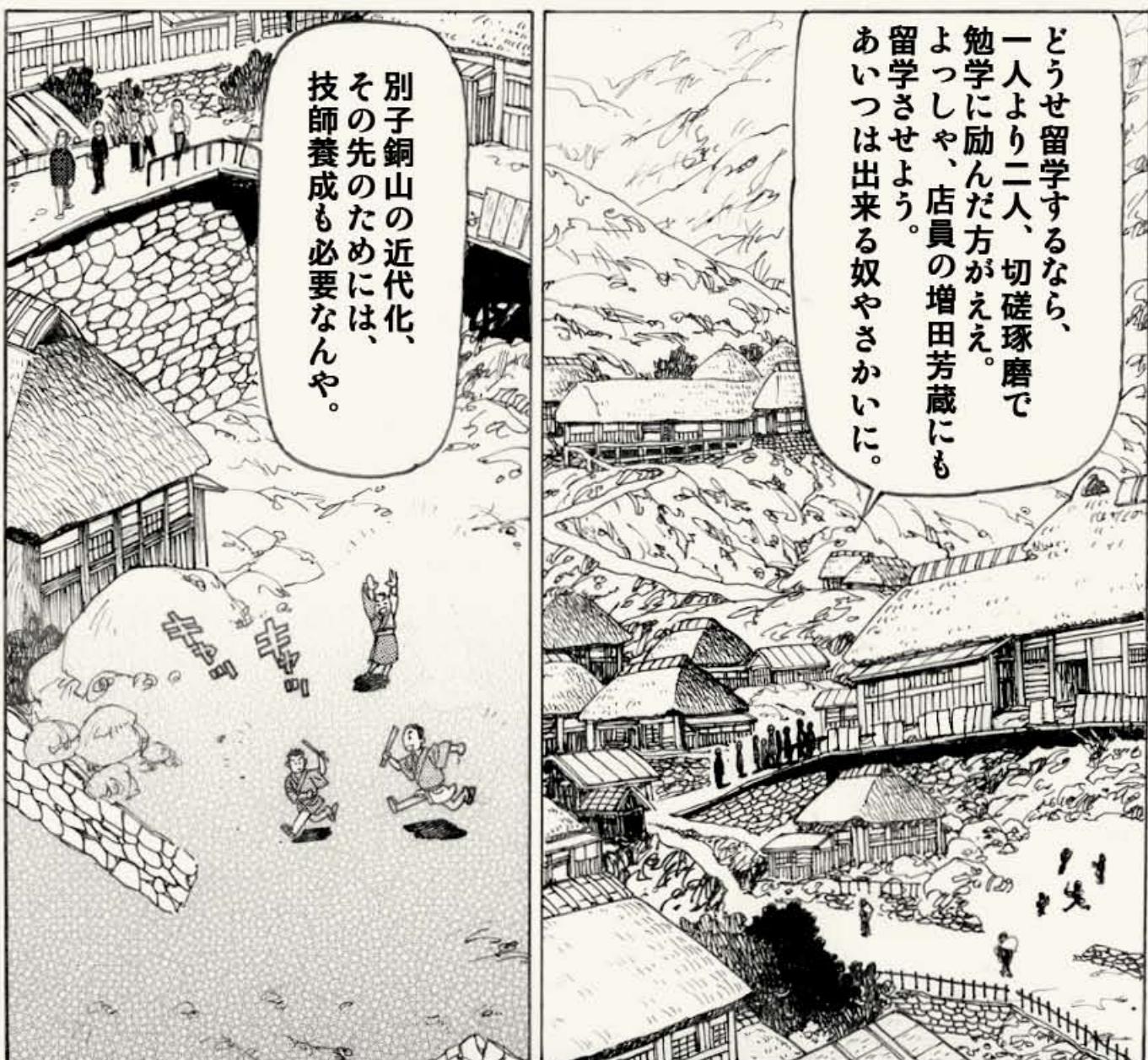
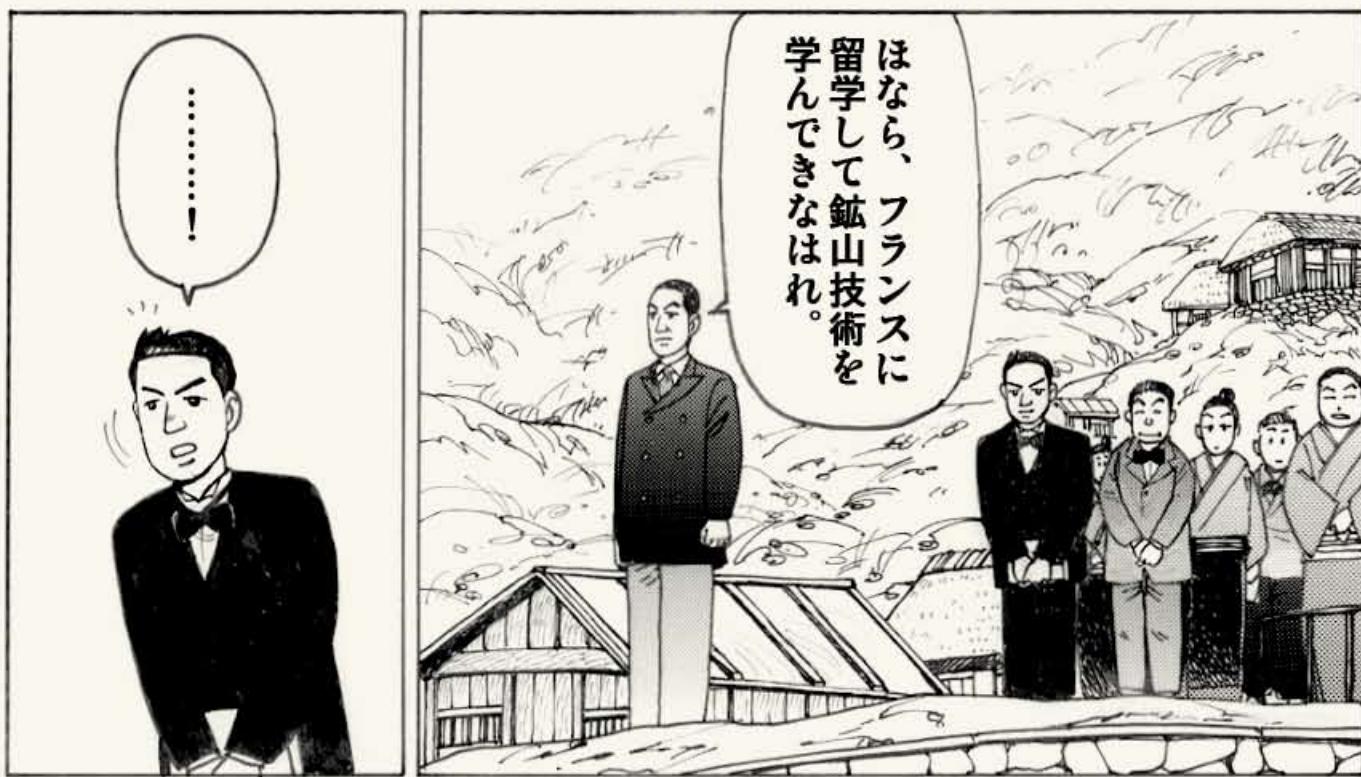
ほんまに
そう思うか？



非常に面白い：いや、
魅力があります。
実はもつと本格的に、
鉱山技術を学びたいと
思つてしまつて
いるのです。

そうか。で、
銅山つてどうや？



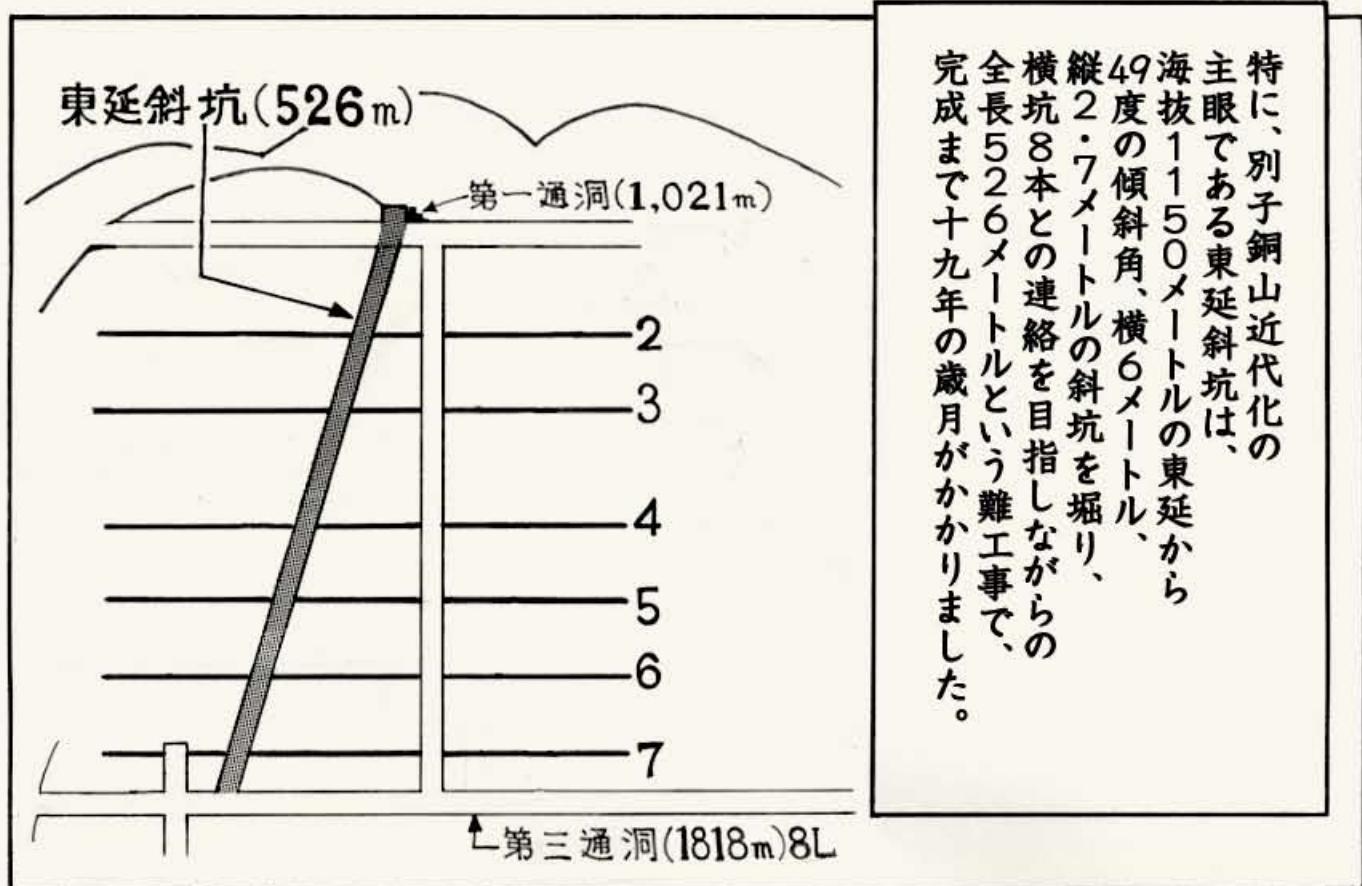


近代化であろうと経営であろうと、すべては人で決まるという。住友の基本的な考え方を、一番理解している広瀬は、人材育成の観点からも、外国人技師雇用をしなかつたのです。



住友は明治九年（1876）、
別子銅山採鉱近代化を目指し、
広瀬宰平の指揮のもと、東延斜坑の開削、
牛車道の着工にかかったのです。



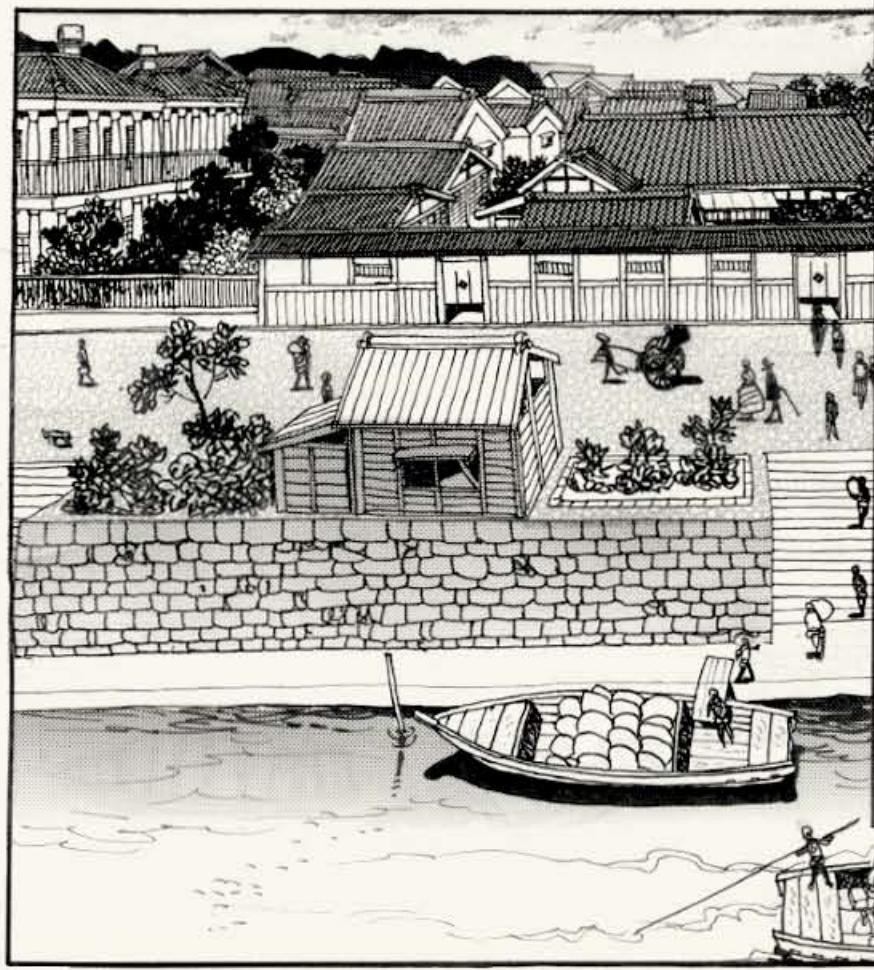


特に、別子銅山近代化の主眼である東延斜坑は、海拔1150メートルの東延から縦49度の傾斜角、横6メートル、縦2・7メートルの斜坑を掘り、横坑8本との連絡を目指しながらの全長526メートルという難工事で、完成まで十九年の歳月がかかりました。



こうした近代化によって、住友の別子銅山の採鉱量は、明治元年時に5637トンでしかなかったものが、東延斜坑の完成した明治二十八年には、十倍強の6万768トンとなり、その後も増産が続いたのです。

運搬道の鉱山から、峠を越えて新居浜までの牛車道約39kmは、約四年を要して開通させ、明治十五年には、ラロツクに日本人だけでは不可能と言われた第一通洞（トンネル）をダイナマイト導入で、約1021メートルを四年かけて貫通させもしました。



近代化開始の頃の明治九年一月。
住友は当主を「家長」と呼ぶことを決め、
その家長・住友友親は同年八月に、
「本家第一之規則」全十箇条を出し、
家長が万世不朽ではなく、
別子銅山||事業が大事。
家長は、使用人達が選ぶ等を決めたのです。

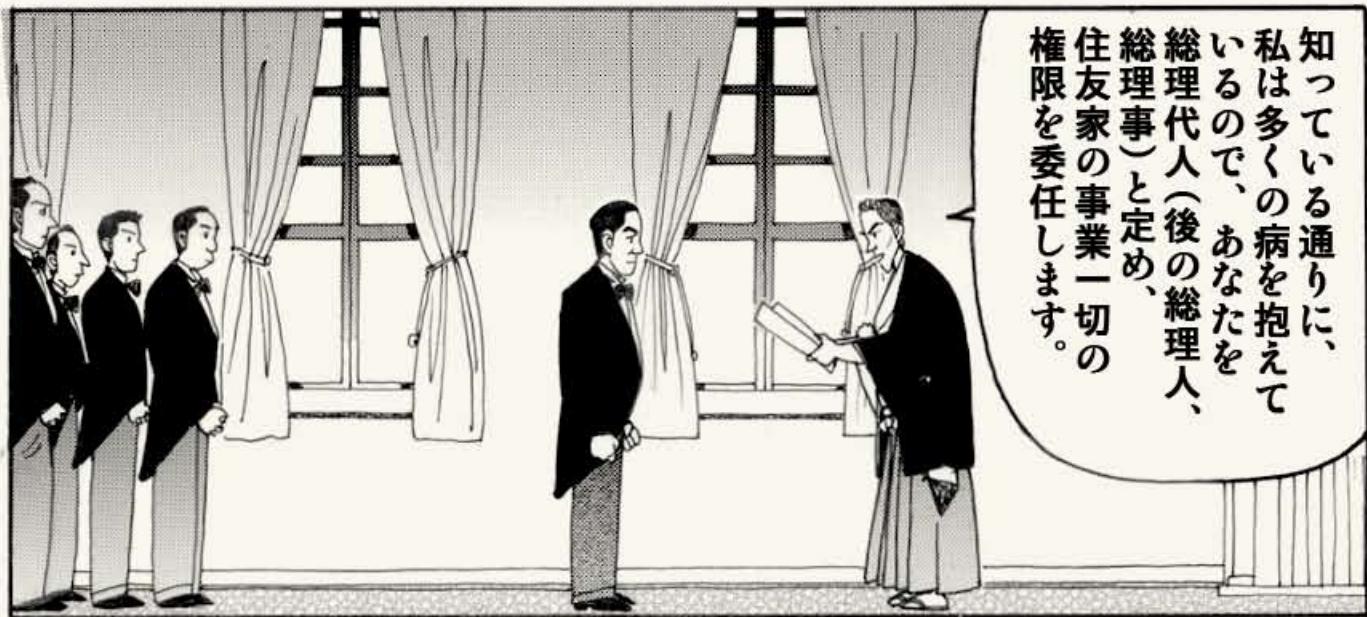


この「君臨すれども統治せず」の制度は、
その後の明治十五年に
広瀬宰平が中心になつて制定された
「住友家法」の母体となりました。

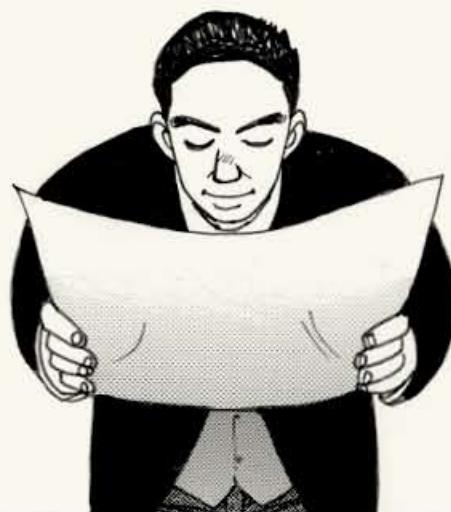
そして明治十年（1877）二月十四日。
住友家第十二代・友親は、
住友を近代企業とするべく、
本店支配方のトップの広瀬宰平に、
偉大なる委任状を渡したのです。



知っている通りに、私は多くの病を抱えているので、あなたを総理代人（後の総理人、総理事）と定め、住友家の事業一切の権限を委任します。



これによつて住友は、資本家と経営者の分離をし、近代企業として新たなスタートを切つたのです。











この伊庭貞剛は、明治十二年二月四日に入社し、後に本店支配人、別子銅山支配人を経て、第二代総理事となり、住友を飛躍させると共に、過去にもその後にも例のない企業の社会的責任＝CSRを実践するのです。

へい、
おおきに。

広瀬總理代人は住友近代化に欠かせぬ、
新しい風||人材を、先の塩野門之助、
伊庭貞剛の他、鉱山技師の大島供清、
大蔵・内務省から加川勝美、
工部省から広瀬担、文部省から教諭の
田辺貞吉らを登用すると同時に、
住友生え抜き店員・長谷川健介、
阿部貞松、小池鶴三らも採用し、
彼らは期待に応える働きを見せるのでした。

まあまあ
でんな。

儲かり
まつか?

あんじょう
頼んまつせ。



伝統の力に新しい力。
人を大切にする住友の基盤が、
さらに強固になり、
近代化を加速させる——。